

4コマ情報モラル教材と疑似体験型教材の開発による情報モラル教育の推進

北海道高等聾学校 教諭 新谷 洋介

1.はじめに

北海道高等聾学校（以下、本校と表記）は北海道内ただ1つの聾学校高等部であり、生徒の大半は寄宿舎から通学している。本校生徒にとって、携帯電話のメール機能、Webサイト閲覧機能は、他とコミュニケーションを取るために非常に便利な機能であり、学校内においても日常的に使用している。また、活用方法もインターネットが主であり、SNSを活用した、掲示板やプロフでの交流も盛んに行っている。そして、それは常にネット上の危険と隣り合わせにいる状態であり、掲示板やプロフなどへ市販のキャラクターなど知的財産を公開してしまう可能性も高い。

そのため、2007年度より情報モラル教育教材の開発と授業実践を行ってきた（新谷・長谷川 2007）。しかし、携帯電話を利用することによって発生するトラブルを授業の中で一つずつ取り上げることが現在の教育課程上、時間的に無理があったため、ショートホームルーム（以下、SHRと表記）や放課の時間等を活用して、担任教師が継続した指導を行うことができるよう、掲示型教材と体験教材のセットを開発することにした。なお、本校生徒は掲示物を閲覧する習慣が身についていることも掲示型教材を開発する理由の1つである。

2.開発した教材の概要

2.1 掲示型教材の特徴

掲示型教材には、生徒が、事例をイメージできるように、また、容易に理解できるように4枚の写真による解説を含めた（図1）。さらに、2次元バーコードを掲載し、対応する体験型教材に容易に携帯電話からアクセスできるようにした。

本教材はHTML形式で作成したことで、「ひらがな・なびい」を利用して、漢字にふりがなを付けることが可能となり、言葉の発達に遅れがある生徒にも学習しやすい教材を提供できるようにした。また、インターネット上に公開し、学校外からも閲覧できるようにしてある。

本教材は、著作権の範囲だけではなく、情報モラル教育として必要とする個人情報の大切さやプロフ、掲示板の特性についての教材も開発している。

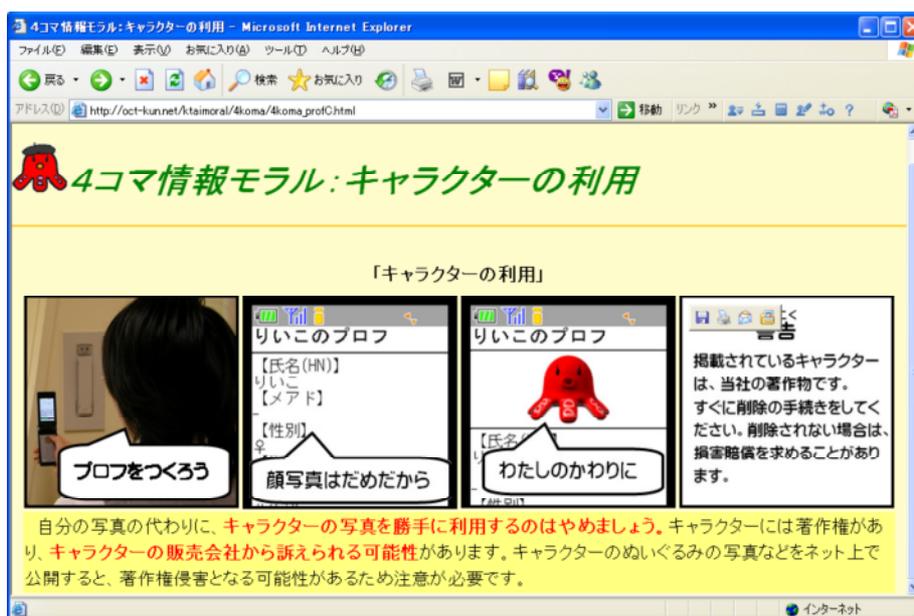


図1 4コマの画像解説付き教材

2.2 4コマの画像解説

掲示型教材のため、一見ただけでおおまかな内容がわかるように4コマの画像を用いた解説方法とした。また、絵を用いるのではなく実際の写真を用いることは、生徒が実際のことだと感じてもらえるような工夫である。また、継続的に配布することより、図2-1、図2-2の例としているキャラクターの問題に関して別な事例を用いて繰り返し提示することができる。



図2-1 自分の代わりにキャラクターを無断使用している例

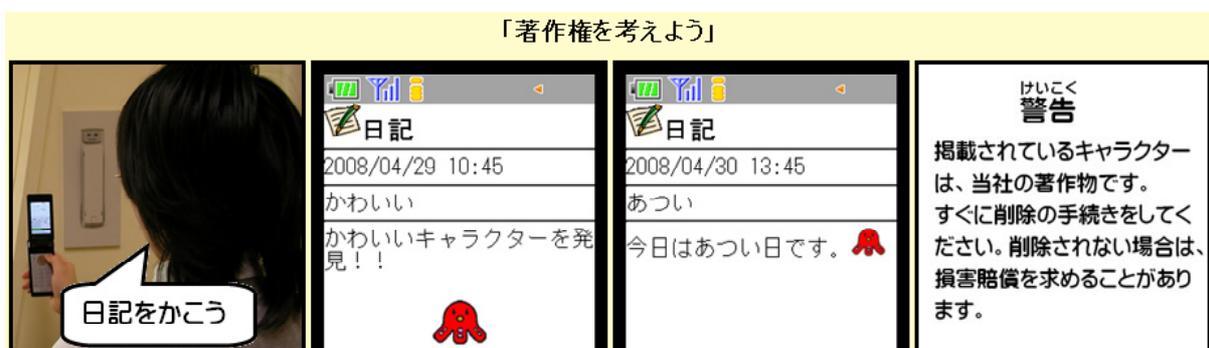


図2-2 絵文字やワンポイント代わりに無断でキャラクターを使用している例

2.3 掲示型教材・体験教材セット

4コマの画像解説付き教材の内容に対応する携帯電話で体験できる教材も同時に開発している。これは、昨年度の取り組みにより、携帯電話を実際に利用した疑似体験は有効であるため、4コマの画像解説付き教材を読み、さらにその資料で使われているサイトを自分の携帯電話で追体験ができるための工夫である。

図3の例は、著作権侵害を犯しているプロフの例である。生徒へは、このプロフを提示し問題がある箇所を発表させる、生徒が考える形で行っている。

また、インターネットの利用環境の実態から、コンピュータよりも携帯電話の利用が多いことから、図3-2のように携帯電話でそのまま確認できるように、携帯電話用の解説を用意している。



図3-1 キャラクターを無断使用したプロフ例

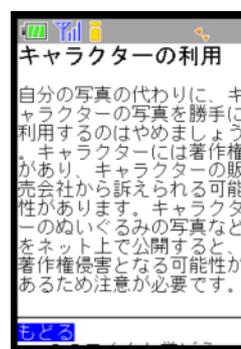


図3-2 携帯電話用解説画面

3. 教育実践

6月12日より、毎週1テーマずつ、各担任に4コマ画像付き教材を配布し、学級に掲示してもらうよう依頼した。掲示までの流れは次のとおりである。掲示の様子を図4に示す。

担当教員が資料を印刷して配布

朝の打ち合わせで資料についての簡単な説明

学級への提示

必要に応じ生徒は2次元バーコードを通じ自分の携帯電話で追体験



図4 学級掲示の様子

朝の打ち合わせで定期的に情報モラルについて簡単に説明することで、教員同士での理解の共通化をすることができていると考える。このことを受け、職員室にも資料を掲示するようにした。

学級への提示では、表2「教材の利用状況」に示すように、9名の担任全員が教室に教材を掲示し、うち8名の教員がSHR等の時間を使って、生徒に説明を行った。また、以下のような、掲示の工夫や補足資料の追加を行う教員もあり、教師にとっても使いやすい教材であるとの評価を得ている。

- ・今週の資料は黒板など目立つところへ掲示し、過去の資料は掲示板に掲示
- ・情報モラルに関する具体的なニュースなどをあわせて掲示

表2「教材の利用状況調査」(N=9)

学級へ掲示のみしている	1
掲示とSHR等での説明をしている	8
掲示していない	0

3.3 生活面での指導

校内での教育活動だけではなく、寄宿舍での指導にも資料を掲示することや集会で説明することをおして、生活面で気をつけなければならないことを説明している。また、保護者向けの通信へも情報モラルに関わる取り組みの記載をし、保護者へも周知できるようにしている。

4. 終わりに

昨年からの取り組みにより、本校教員の意識が高まり、全クラスで情報モラル教育が行われるようになりつつあることは大きな前進であると考えている。

また、生徒が、寄宿舍の指導員や保護者と一緒に学んでいく方向性が出てきたことも成果だと考えている。

参考文献

新谷洋介，長谷川元洋（2007），携帯電話のインターネット機能の特性を考慮した情報モラル教材の開発と授業実践，日本教育工学会第23回大会講演論文集，pp657-658

富士通ラーニングメディア(2007)，ひらがな・なびい，<http://jp.fujitsu.com/group/flm/eco/hiranavi/>（最終アクセス日 2008/09/11）

長谷川元洋，新谷洋介(2007)，携帯電話を使用した疑似体験型情報モラル教材の効果，日本教育工学会第23回大会講演論文集，pp. 655-656

新谷洋介ら(2008)，4コマ画像付き掲示型と体験型の情報モラル教材セットの開発，日本教育工学会第24回大会講演論文集